

「子供たちの未来づくり」②

「よのなか教室」体験記



「日向の大人はみな子供たちの先生というスローガンのもとに始まった「よのなか教室」の講師を務めさせてもらった。

大王谷学園中等部7年生(中1)を対象に行われる授業だった。この授業は、社会の様々な仕事を実際に自分たち自身で訪ねてみて体感するという「職場訪問」に先立ってその事前学習として行われたものだった。先生方の工夫で少しでも多くの生の話を聞かせてやりたいという配慮から、6名の講師が担当することになった。そして、各講師が3回ずつ同じ話をする。その都度子供たちは入れ替わる。子供たちは講師の仕事の内容をみて、聞いてみたい講師のところへ3回行く。つまり、3人の大人の話聞けることになるわけである。

1回の話の時間は20分間だった。限られた時間だったが、どんな仕事をしてきたのかとが、仕事をしていて苦労したことや楽しかったこと等について話した。子供たちは真つ直ぐにこちらを見て、しっかりと話を聞いてくれた。質問も結構出た。親以外の他所の大人から聞く話には、きつと好奇心を感じたに違いない。

一番難しかったのは、仕事の中でいろいろ工夫してうまくいったり、人に喜ばれたりしたことを、どうやって伝えるかだった。仕事の辛さや苦労は何とか話すことができるが、魅力を伝えるのは、なかなか難しい。それも、資格などない一般の事務の仕事をしてきた自分にとって、事務の仕事の魅力をどうやって伝えたらいいのか正直迷ってしまった。

仕事の中で経験する様々な工夫や苦労や喜びを伝えるにはどうしたらいいのだろう。やはり具体的な生の経験談を交えながら話してあげることが必要だったなあと感じた。今回は満足できるものにはならなかった。子供たちに申し訳ないと思う。できれば、もう一回二回やらせて欲しいと願っている。

文/日向市キャリア教育支援センター長

水永 正憲

